

尼崎市立わかば西小学校 平成28年度 学校評価

学校関係者評価委員会について

委員：学校評議員3名
PTA 会長

学校：校長、教頭

- 1 本年度の重点取組
 - 1 新統合校としてスタートするにあたり、登下校の安全と、仲良く楽しく学校生活を送れる事を、最優先重点取り組み課題とする。
 - 2 児童・家庭と強い信頼関係を築き、児童が主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を伸ばしていく教育の充実に努める。
- 2 教育目標・めざす子ども像 わかるまで自ら学習に取り組む子・場を清め協力して活動する子・にこやかに挨拶と返事が出来る子・しっかり食べ進んで運動に親しむ子
- 3 本年度の研究テーマ 「自分の思いや考えを言葉にし、相手に伝わるように表現する子どもの育成をめざして」～言語活動を通してコミュニケーション能力を育てる～

自己評価の基準	4：十分達成できた	3：達成できた	2：取り組んでいるが、成果は十分でない	1：取組が不十分である
関係者評価の基準	4：よく取り組んでおり、成果が大きい	3：熱心に取り組んでおり、今後の期待できる	2：取り組んでいるが、成果は十分でない	1：取組が不十分である

4 学校評価（自己評価及び学校関係者評価）

(1) 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる

評価内容	取組とその成果	自己評価	課題と改善策	学校関係者評価委員会での意見
授業改善の取組を促進するとともに家庭との連携により、学力向上を推進する 特別支援教育充実の取組を促進し、自立や社会参加に向けた主体性を育成する	学力向上の推進 ・自主学習に取り組み、家庭での学習習慣の定着、改善が見られた。 ・一人一授業、指導案を作成、授業公開。→指導力の向上に繋がった。 ・少人数授業によるきめ細かな指導で、特に算数の理解が向上した。 特別支援教育の推進 ・心の教育特別支援員による支援→一人一人のニーズに応じた細かな支援ができています。 ・児童理解研修の定期的な開催→生徒指導や個々の支援に役立った。 ・小中合同研修会の実施→指導に係る、教員の連携が取りやすくなった。	3.0	・さらに児童が主体的に学習に取り組むような指導の充実が課題である。→単元全体を見通した計画をきちんとした上で、指導していく。 ・サマースクールを実施に約8割の児童が参加し、復習の充実にも役だったが、今後、各個人にあったレベルアップをどうするか検討する→三段階程度の個別に対応した問題の作成等について検討していく。 ・特別支援教育の共通理解の会は、来年度は早めに実施できるように計画、児童への啓発も適切な時期に実施を計画する。	・児童が自主的に学習に取り組めるように指導されていて、その成果が出つつある。今後も学力向上の取組に期待する。 ・特別支援教育についても、適切な支援がなされている。 ・基礎的な学力がついてきている。

(2) 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る

評価内容	取組とその成果	自己評価	課題と改善策	学校関係者評価委員会での意見
道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する	・生徒指導部会→増えた児童に関する情報を共有し、組織で指導に取り組む体制ができた。 ・県の道徳教育副読本の計画的活用→学年段階に応じた指導の徹底が出来た。 ・全校なかよし集会→仲良く・楽しくをめあてに、新しい人間関係を築けた。 ・「人権・命」に関する講演会の実施→人権意識や道徳心の向上を図り、豊かな人間性を育むことができた。	3.0	・児童数が急に増えたことで、細かい事を見逃す事があるのではないかと心配である。→必要に応じて、児童理解の場を設け、「全職員で全児童を見守る」という体制を今後も徹底し、未然に問題行動を少なく出来るよう、組織として指導していく。 ・係や当番活動の指導の徹底が十分でないところがあった→みんなの役に立つ、働く喜びを味わわせる指導を工夫していく。 ・キャリア教育の充実を図る。→キャリアノートの活用や、地域人材の活用を推進していく。	・地域での児童の様子を見ていて、特に指摘するようなことはない。今後も、学校や家庭以外でも、人に迷惑をかける行動ができるよう、家庭と連携して指導してほしい。

(3) 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む

評価内容	取組とその成果	自己評価	課題と改善策	学校関係者評価委員会での意見
食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する	<ul style="list-style-type: none"> 残食も少なく、しっかり給食を食べている。栄養教諭による給食時の放送や、食育の授業で児童の色に対する意識も高くなった。 ポスターや放送等で手洗い、うがい等の生活習慣づけを児童に徹底し、望ましい生活習慣の確立に取り組めた。 チャレンジなとびにエントリーする。→体力・持久力向上に取り組んだ。 ジョギング週間を実施→進んで運動に取り組む意欲・体力の向上を図る。 給食試食会を行う。→食育の理解と関心を高める。 	3.5	<ul style="list-style-type: none"> 体力の向上を目指す。→年間を通して、長縄跳び等、友だちと仲良く楽しくできそうなものに、目標を持って取り組むことで、楽しみながら、体力も向上することが可能となる。 栄養教諭を中心として、食育の理解と関心を高めるため、給食週間の取り組みや、委員会活動と組み合わせて充実させていく。 さらに、外で元気に活動する必要がある→児童会や委員会等で、イベントを提案して全校で取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 食育が適切に行われていることにより、家では食べないものも、給食では残さず食べることができている。 マラソン大会が行われなかったが、児童の体力や持久力の維持ができているのか少し心配に思う。
体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る				

(4) 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る

評価内容	取組とその成果	自己評価	課題と改善策	学校関係者評価委員会での意見
安全教育の取組を促進し、登下校及び校内の安全確保を図る	<p>登下校の安全指導の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> 統合校の大きな課題である、登下校時における安全指導の徹底について、地域・PTAの協力や、職員の立ち当番の実施→児童の安全を守り、指導の徹底を継続する。 避難訓練、年3回の実施→「自分の身は自分で守る」防災に対する意識を高め、対処法の習得を徹底する。 不審者対応訓練の実施→警察の協力で、不審者侵入を想定した、職員の不審者対応についての意識・技能を高め、対処法の習得を徹底する。 災害対応マニュアル、不審者対応マニュアルの作成→緊急時の対応について、職員の共通理解を図る。市の様式の改訂に取り組む。 	3.0	<ul style="list-style-type: none"> 学校・地域が連携して登下校の安全確保に取り組んでいるが、事故が4回起きている。→「自分の身は自分で守る」意識を高めるため、通学路にポスターの設置し、下校時の職員の立ちや当番見回りも実施する。 地域・PTAの協力や、職員の危機意識を高めていく。→引き続き、児童の安全を守り、安全に対する指導を継続し「自分の身は自分で守る」指導の徹底していく。 地域と連携した避難訓練の充実→日頃から、児童の防災に対する意識を高め、下校後や一人の時の対処法を習得させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後の自転車の事故が心配である。おとなが乗り方の手本を示すことが大切だ。学校、PTA、地域のそれぞれが児童の安全を見守っている。更に連携し、取り組んでいくことが課題である。
防災教育充実の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る				

(5) 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活気に満ちた学校園づくりに取り組む

評価内容	取組とその成果	自己評価	課題と改善策	学校関係者評価委員会での意見
教職員の資質向上の取組を促進し、学校の組織力及び教育水準の向上を図る	<p>開かれた学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業参観・オープンスクール、新しく児童会まつり等を実施できた。 地域人材の活用→地域の方々による図書ボランティアへの参加。本に興味をもつ児童が増えつつある。 <p>教職員の自己研修</p> <ul style="list-style-type: none"> サマースクールの実施→教師の専門性を生かし、資質向上を図る。児童の学習に対する関心・意欲が向上した。 校内外の各種研修・研究会に積極的に参加した。自己研鑽に努め、一人一授業の実施で、実践的指導力の向上を図った。 	2.5	<ul style="list-style-type: none"> 児童が主体的に学習に取り組む授業の充実を図る。→講師を招聘し、全体研究会で、段階的な指導など共通理解を深めていく。 学校行事・授業参観・オープンスクール、児童会まつり等の充実→地域に学校の情報を発信し、地域の方々が学校に足を運んでいただけ易いよう、環境づくりを推進していく。 新たに生まれた学校として地域の信頼を高めていく。→学校の取り組み等を積極的に、継続して発信していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の3つの連協で、組織的に見守り活動ができるように体制を整えたいと考えているところである。地域の方々に学校のことを知ってもらい、理解してもらって、協力してもらうことが大切である。
地域資源活用の取組を促進し、開かれた学校園づくりを図る				

(6) 教育目標

評価内容	取組とその成果	自己評価	課題と改善策	学校関係者評価委員会での意見
教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> 算数の学習内容を、十分身につけることができた。 朝のわかば西タイムを充実させ、音読・漢字・言語等習得のため、基礎基本の定着を図れた。読書力向上担当と連携し、朝読書等、読書活動を推進できた。 体を動かす楽しさや喜びを経験させ、休憩時間の外遊びや体育、スポーツ活動の充実を図れた。(長縄跳び等) アクティブラーニングの視点に重点をおき、児童自ら、問題解決に取り組む授業を目指し、研修に取り組めた。 	3.0	<ul style="list-style-type: none"> めあての達成に個人差が見られる。→学力定着支援事業の人材をうまく活用し、意欲をもって学習に取り組む児童を増やしていく。 算数の成果を分析し、国語の力も向上していく→授業と家庭学習をうまく結びつけていく取り組みを工夫する。 あいさつ、清掃についても達成に個人差がある。→組織として目当てが達成できるよう継続して取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> よく取り組まれている。
教育目標の具現化と指導の充実				

(7) 研究テーマ

評価内容	取組とその成果	自己評価	課題と改善策	学校関係者評価委員会での意見
研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> 国語科を研究の柱とし、研究推進委員会と全体研究会で取り組んでいくことができた。初年度であったが、わかば西の児童の発達に寄与する取り組みを、全職員で模索した。 将来的に系統立った学習活動・指導を展開できる骨組みを構築をめざす上で、基礎となる部分。 実践的な演習等、研修会の実施→講師を招聘し、実践的なアクティブラーニングに関する全体研究会を実施した。 	3.0	<ul style="list-style-type: none"> 学年ごとのめあてをどう設定するのがいいか。→わかば西小の児童に一番フィットする、アクティブラーニングの視点に重点をおき、児童自ら、学習に取り組む授業を目指し、授業展開の工夫「わかる授業」「生きる力のつく授業」の充実に努めていく。 実践的な演習等、研修会を実施する必要がある。→講師を招聘し、演習を中心とした、4度の実践的なアクティブラーニングに関する全体研究会を実施出来た。来年度からは、授業研究と合わせて実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> よく取り組まれている。
研究テーマの具現化と指導の充実				

※ その他の学校関係者評価 (A: 優れている B: 適切である C: おおむね適切である D: 要改善)

アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	B
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B